

があった。本研修会の参加者には「研修終了証」が授与されているが、それ以外のメリットはないことも問題視されている。参加へのインセンティブをどうするべきかは、今後の課題の一つである。

平成25年度以降の研修会のあり方については、本事業の主体である北海道と改めて検討したいと考えている。

## まとめ

平成24年度の「主治医の意見書記載・研修会」の結果等について報告した。介護保険制度が創設され10年以上が過ぎ、対象高齢者の急増、また介護スキルの進歩などによって幾つかの制度矛盾が明らかとなってきている。特に現在の時間軸による判定基準が施設入所者を対象とした「タイム・スタディ」から算出されたものであり、在宅高齢者の介護時間とは必ずしも一致しないことを指摘しておきたい。この点からも高齢者の生活条件を勘案した二次判定がなされるべきと考えられる。

高齢者介護の基本が「食事・排泄・清潔保持・移動そして人権の尊重」の5条件であることは変わら

ない。高齢者が自立した生活を送るためには、これらの条件を満たす「ケア・プラン」に支えられた「介護保険制度」の利用が必要である。

横倉新日医会長は「地域医療の問題解決は、地域医師会からの提案によるボトムアップ」が今後の課題であることを強調されている。「地域包括ケア」を支えるためにもさらなる介護保険制度の有効活用が求められるところである。

介護の問題は、直接的には「医師会マター」ではないことから医師会総体としての関心が薄いことは、大変残念である。しかし「治す医療から支える医療」が叫ばれ「在宅医療と介護の協働」、急増する認知症高齢者に対する「医療と介護の連携」などは今後の重要な課題である。

3次医療圏レベルではなく2次～1.5次医療圏で活躍されている現場の医師にとっては、介護の問題は避けて通ることができない問題であると考えられる。

今後とも北海道医師会に対しての忌憚のないご意見をお願いして報告の結びとしたい。

## 北海道医師会 女性医師等支援相談窓口を ご存知ですか？

北海道医師会では、お忙しい医師のために  
育児支援事業や仕事と家庭の両立を支援するために、  
現役の先輩医師による相談窓口を開設しています。  
詳しくは、以下の専用ホームページをご覧ください。

### 育児支援

病気や緊急時にご利用いただくもので、病院からの急な呼出し等で子どもを預けたい時、手術や急な残業でお迎えに間に合わない時、また、保育園・学童保育などで発病したがお迎えに行けない時などに当会が保護者に代わって送迎の手配を行うものです。

### お悩みコーナー

ご相談内容に応じて、先輩医師が適切なアドバイスを  
行うことで問題解決の糸口につながる事ができ  
ればと考え、「お悩みコーナー」を設置しております。  
女性医師等が結婚・出産・育児等を機に離職するこ  
となくキャリアを継続していただくため、日頃考え  
ていることや悩んでいることなどを電話やメ  
ールなどでご相談いただくコーナーです。  
お気軽にご相談ください。

### 復職研修支援

復職を目指し研修を希望する女性医師等に対し  
て、より身近な地域の医療機関において研修  
が受けられるよう、当会が医療機関へ委託  
し、研修を実施します。

## 北海道医師会 女性医師等支援相談窓口

- 詳しくはこちらをご覧ください 「女性医師等支援相談窓口」専用ホームページ <http://www.hokkaido.med.or.jp/josei-dr-shien/>
- ご相談はこちらへ ☎ 0120-112-500 ■FAX 011-231-7272 ✉ [josei-dr-shien@m.douji.jp](mailto:josei-dr-shien@m.douji.jp)  
北海道医師会 〒060-8627 札幌市中央区大通西6丁目 <http://www.hokkaido.med.or.jp/>